

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 郡山市立白岩小学校 】

1 実践テーマ	①・ Ⅱ ③・④・⑤（複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	全校生 44名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間 生活科 体育科） ② 行事名（ ） ③ その他（課外 給食の時間） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 （ねらい）	○ 国際・異文化理解、共生社会への理解を深め、多様性を尊重する態度を育てる。 ○ オリンピック・パラリンピックに関する知識、選手の体験・エピソード、大会を支える仕組み等について理解を深める。 ○ スポーツに対する興味・関心を高め、スポーツを楽しむ心を育てる。
5 取組内容	「わたしたちのオリンピック・パラリンピック in Tokyo」 ～ やってみよう つながろう ～ 実践1 「聖火リレートーチの展示」（課外 全学年） <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;">県オリンピック・パラリンピック推進室より聖火リレートーチの貸し出しを受けることができた。全校生が手にとり記念写真を撮った。オリンピック・パラリンピックを身近に感じることができた。</div>

ピカピカしていて
きれい！重くない
よ。



卒業アルバムに載せ
てもらおう。
記念になるね。



実践2 「郡山市のホストタウン・オランダ王国について学ぼう」 (生活科・総合的な学習の時間 全学年)

郡山市国際政策課国際交流員のヨースト・クラルトさんに、オランダの気候や風土、文化や教育などについて教えていただいた。子どもたちは日本との違いに驚きを覚えるとともに日本の良さについても改めて感じることができた。

オランダで有名な花
は何でしょう。

チューリップだよ。



実践3 「オランダの文化を知ろう（オランダ給食）」※オンライン (給食の時間 全学年)

郡山市国際政策課国際交流員のヨースト・クラルトさんに、オランダの文化について「食」を中心にオンラインで話していただいた。子どもたちは、実際にオランダの料理を口にしながら、日本との食文化の違いを実感することができた。



このスープおいしいね。
これがオランダの味かあ。

またヨーストさんに教えて
もらえるね。



実践4 「走る楽しさを知ろう」「アスリートとして取り組もう」 (体育科 4～6年)

北京オリンピック陸上に出場した千葉麻美氏に「夢や目標に向かってがんばること」と題した講話と「速く走るためのポイント」の実技指導をいただいた。子どもたちは、オリンピックを身近なものとして感じるとともに、自分の夢の実現について希望を新たに持つことができた。

カッコいいなあ。
私も夢に向かってがんばろう。

スタートは体重を前にかけるんだね。



6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ オランダ大使館より市へ寄贈され、本校で大切に育ててきたチューリップが聖火リレーの沿道に飾られた。また、聖火リレートーチの貸し出しを受け校内に展示するとともに、全校生が一人ひとり手にした。これらの活動で子どもたちは、オリンピック・パラリンピックをより身近に感じるとともに、興味関心をさらに高めることとなった。(スポーツへの興味・関心) ○ 郡山市国際政策課国際交流員のヨースト・クラルトさんにお越しいただき、オランダの気候や風土、文化や教育などについて講演いただいた。また、市の「オランダ給食」の際に「食」を中心にオンラインで改めてオランダについて話していただいた。子どもたちは日本との違いに驚きを覚えるとともにオランダの良さを感じ、さらに日本の良さについても改めて感じる事ができた。(国際・異文化理解)(共生社会への理解) ○ オリンピアン千葉麻美氏に「夢や目標に向かってがんばること」と題した講話と「速く走るためのポイント」の実技指導をいただいた。子どもたちは、オリンピックを身近なものとして感じるとともに、自分の夢の実現について希望を新たに持つ事ができた。また、運動に対する興味・関心も高まった。(スポーツの価値への理解)(子どもの夢・希望の育成)
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピック・パラリンピックの開催年にあたり、共催者としての意識を高め、オリンピック・パラリンピックを身近なものとして捉え、スポーツへの興味・関心を高めたり、スポーツの良さを味わわせたりすることを念頭に置き事業を計画した。 ○ オリンピック・パラリンピックをより身近なものとして感じられるよう、郡山市或いは近隣の市で活躍する人材を選定し、児童の発達段階に応じた内容を計画するよう心がけた。 ○ 学校が起点となり、地域のホストタウンとしての気運を高められるよう、家庭・地域への情報発信の機会を設定した。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 講師の確保に関しては、市の関係機関から積極的な支援を受ける事ができた。事業を進める上で大変助かった。 ○ オリンピック・パラリンピック東京大会が終わり、今後、高まった気運やスポーツへの興味関心などを学校教育の中にどう生かしていくかということ。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高まったスポーツへの興味・関心やスポーツの価値への理解、国際・異文化への理解、共生社会への理解などを日常の授業や学校行事の中でオリンピック・パラリンピックと重ね合わせながらさらに深めていく。